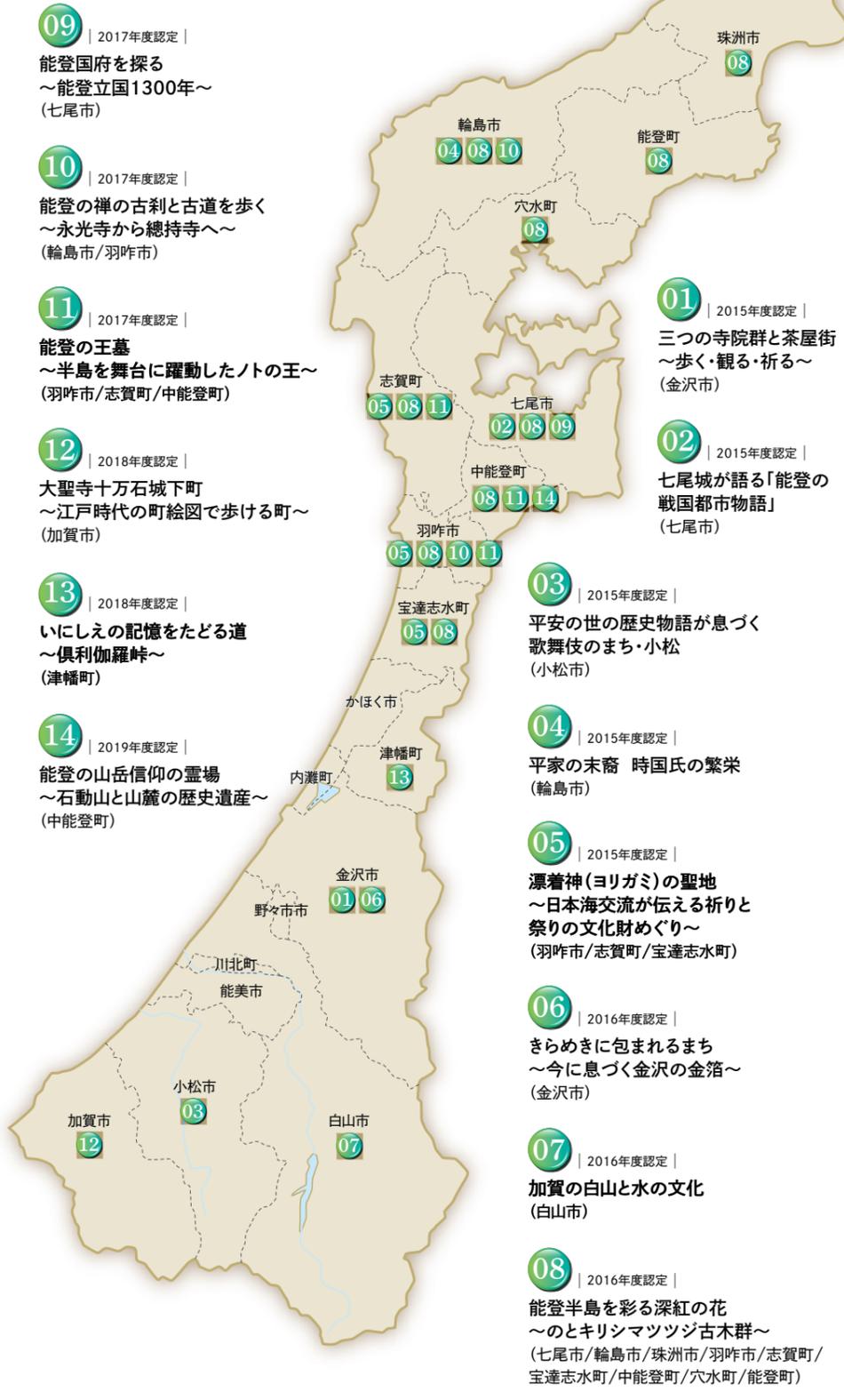




いしかわ Ishikawa Historical Heritage 歴史遺産



「いしかわ歴史遺産」MAP



09 | 2017年度認定 |
能登国府を探る
～能登立国1300年～
(七尾市)

10 | 2017年度認定 |
能登の禅の古刹と古道を歩く
～永光寺から總持寺へ～
(輪島市/羽咋市)

11 | 2017年度認定 |
能登の王墓
～半島を舞台に躍動したノの王～
(羽咋市/志賀町/中能登町)

12 | 2018年度認定 |
大聖寺十萬石城下町
～江戸時代の町絵図で歩ける町～
(加賀市)

13 | 2018年度認定 |
いにしへの記憶をたどる道
～俱利伽羅峠～
(津幡町)

14 | 2019年度認定 |
能登の山岳信仰の霊場
～石動山と山麓の歴史遺産～
(中能登町)

01 | 2015年度認定 |
三つの寺院群と茶屋街
～歩く・観る・祈る～
(金沢市)

02 | 2015年度認定 |
七尾城が語る「能登の
戦国都市物語」
(七尾市)

03 | 2015年度認定 |
平安の世の歴史物語が息づく
歌舞伎のまち・小松
(小松市)

04 | 2015年度認定 |
平家の末裔 時国氏の繁栄
(輪島市)

05 | 2015年度認定 |
漂着神(ヨリガミ)の聖地
～日本海交流が伝える祈りと
祭りの文化財めぐり～
(羽咋市/志賀町/宝達志水町)

06 | 2016年度認定 |
きらめきに包まれるまち
～今に息づく金沢の金箔～
(金沢市)

07 | 2016年度認定 |
加賀の白山と水の文化
(白山市)

08 | 2016年度認定 |
能登半島を彩る深紅の花
～のとキリンまつツジ古木群～
(七尾市/輪島市/珠洲市/羽咋市/志賀町/
宝達志水町/中能登町/穴水町/能登町)

いしかわ歴史遺産

石川県内の各地域に点在する有形・無形の文化財を束ね、世代を超えて受け継がれている歴史、伝承、風習等、本県の魅力を伝えるストーリーを「いしかわ歴史遺産」として認定し、全国に本県の魅力を発信します。

ストーリーの中核には、石川県内の魅力的な建造物や遺跡・名勝地、祭りなど、地域に根ざして継承・保存がなされている文化財にまつわるものが据えられています。

能登では、七尾城や輪島の平家伝説、漂着神の信仰文化、加賀では、歌舞伎のまち・小松、加賀大聖寺の城下町、他にも金沢の金箔や白山と水の文化など、14件の様々なストーリーがこれまでに認定されています。

いしかわ歴史遺産を通じて、石川県の魅力を再発見してみませんか。

2015年度認定 | 金沢市 No.01 三つの寺院群と茶屋街 ～歩く・観る・祈る～



金沢には、城下を取り囲んだ三つの寺院群に150を超える寺社があり、坂路や迷路のような小路を巡れば、静寂の中に四季折々の変化に富んだ散策を楽しむことができる。

また、寺院群に近接した三つの茶屋街のキムスコと呼ばれる出格子のまちなみを歩けば、金沢芸妓の三味線や鼓の音色が聞こえてくる。三つの寺院群を歩き観て、祈りを捧げ、茶屋街で伝統芸能や食を楽しめば、きっと訪れた人の心に安らぎを与える旅となるだろう。

構成文化財
・卯辰山山麓寺院群(重要伝統的建造物群保存地区)
・主計町茶屋街(重要伝統的建造物群保存地区)

お問い合わせ先 金沢市文化スポーツ局文化財保護課(076-220-2469)

2015年度認定 | 七尾市 No.02 七尾城が語る「能登の戦国都市物語」



七尾城は、上杉謙信も絶賛した国内屈指の山城であり、苔むした石垣や本丸からの壮大な眺望から兵どもが夢の跡を体感できる。

七尾城の麓には、湊まで連なる「千門万戸」と謳われた賑やかな城下町が連動し、一帯は能登国の政治・経済・文化の中心として繁栄し、京の文化人との活動から芽生えた畠山文化が開化した。幾時代を経ても、七尾城山は市民に親しまれ、往時を偲ぶ文化財や伝承が受け継がれている。

構成文化財
・七尾城跡(国指定史跡)
・懐古館(国登録有形文化財)

お問い合わせ先 七尾市教育委員会スポーツ・文化課(0767-53-8437)

令和4年(2022)3月 石川県教育委員会 発行

〒920-8575 石川県金沢市鞍月1-1
TEL 076-225-1844 FAX 076-225-1843(文化財課)

<https://www.pref.ishikawa.lg.jp/kyoiku/bunkazai/ishikawarekishi/1.html>

No.03 平安の世の歴史物語が息づく歌舞伎のまち・小松



構成文化財
・安宅の関跡 (県指定史跡)
・那谷寺本堂 (国指定重要文化財)

歌舞伎「勸進帳」は、加賀国「安宅の関」を舞台とした「智・仁・勇」の物語である。小松は安宅の関跡、白拍子「仏御前」にまつわる史跡、斉藤別当実盛の兜など、源平にまつわる歴史遺産が数多く残る。室町時代には謡曲「安宅」「仏原」「実盛」が誕生し、江戸中期には、曳山子供歌舞伎がお旅まつりに取り入れられ、現在まで続けられている。平安の世の歴史物語がつむぎ出した伝統芸能は、小松の人々に脈々と受け継がれ、「歌舞伎のまち」を創り出している。

お問い合わせ先 小松市文化振興課(0761-24-8130) こまつ曳山交流館(0761-23-3413)

No.04 平家の末裔 時国氏の繁栄



構成文化財
・上時国家住宅 (国指定重要文化財)
・時国氏庭園 (国指定名勝)

平氏政権といわれ権勢を振るった平氏一門。平清盛の側近として活躍した権大納言平時忠も、平氏の凋落とともに能登へ配流された。しかし、その子孫は活発に地域を開発し、製塩や海運にも携わり、豪農として地域の一大領主として繁栄する。能登平氏の末裔「上時国家」「時国家」の両家は、歴史の語り部として平家伝説を今に伝えている。

お問い合わせ先 輪島市教育委員会文化課(0768-22-7666)

No.05 「漂着神」の聖地 ～日本海交流が伝える祈りと祭りの文化財めぐり～

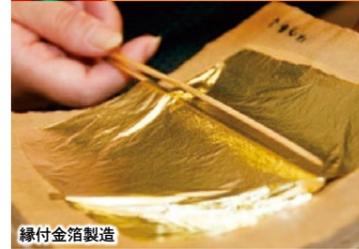


構成文化財
・富木八幡神社 (富木八朔祭礼)
・気多神社拝殿 (国指定重要文化財)

日本海に洗われる口能登の沿岸地域は、先進の技術と共に多様な信仰文化も受け入れた。出雲からの来臨と伝える気多大社は、はるか大陸とも結んだ北陸道沿岸地域の総鎮守であり、寺家遺跡はその古代神祇の発生を伝える。各地に点在する漂着伝承、タブノキの巨樹とその信仰は、異世界から寄り来た「漂着神(ヨリガミ)」たちの足あとである。この地の神々を訪ねれば、日本海交流と生きた古代能登人の祈りと祭りの原風景を見ることができる。

お問い合わせ先 羽咋市教育委員会文化財課(0767-22-5998)

No.06 きらめきに包まれるまち ～今に息づく金沢の金箔～



構成文化財
・金城霊沢
・金沢の金箔製作用具 (国指定重要有形民俗文化財)

金沢の地名は、兼六園にある「金城霊沢」で、芋掘り藤五郎が山芋についた砂金を洗った伝説が由来といわれている。金箔は、金を打ち延べて約1万分の1mmまで薄く延ばし活用する工芸素材であり、現在、日本の金箔は、ほぼ全てが金沢で製造されている。金沢の金箔は、文化財の建造物や美術工芸品、現代にも伝わる伝統工芸ばかりでなく、日常生活の様々な場面でも使用されており、人々の暮らしはきらめきに包まれている。

お問い合わせ先 金沢市文化スポーツ局文化財保護課(076-220-2469)

No.07 加賀の白山と水の文化



構成文化財
・白峰地区 (重要伝統的建造物群保存地区)
・旧山岸家住宅 (国指定重要文化財)

日本三名山の白山は、泰澄によって養老元年(717)に開山されたとされる国内屈指の山岳信仰を持つ霊山である。万年雪を抱き、様相が神々しいことから女神に例えられ崇められており、この霊峰を源流とする手取川は、山間の谷間集落をとおり、平野へ出て扇状地を形成し、日本海へ注ぐ。恵みの水は、信仰心をもたらし(祈る)、暮らしを支え(使う)、経済的な発展を生み(醸す)、霊峰より出ずる見事な水の文化を創り上げた。

お問い合わせ先 白山市観光文化スポーツ部文化財保護課(076-274-9579)

No.08 能登半島を彩る深紅の花 ～のとキリシマツツジ古木群～



構成文化財
・大谷ののとキリシマツツジ (県指定天然記念物)
・赤崎ののとキリシマツツジ (県指定天然記念物)

能登半島の里山里海景観に古くから彩を添えてきた「のとキリシマツツジ」は、美しい濃赤の花が人々の目を楽ませる。キリシマツツジは、近世に関東で栽培が流行し、能登半島には関東(江戸)や関西から運搬されたといわれており、現在も樹齢100年を超える古木が500株以上も存在する。「のとキリシマツツジ」は、古くから能登の寺社や旧家の庭園などに植えられ、花を鑑賞する文化があり、人々の拠り所となっていたことを物語る。

お問い合わせ先 能登町教育委員会(0768-62-8537)

No.09 能登国府を探る ～能登立国1300年～



構成文化財
・院内勅使塚古墳 (県指定史跡)
・須曾蝦夷穴古墳 (国指定史跡)

養老2年(718)、能登国が立国。現在の七尾には、古府や国分の地名や、多くの文化遺産が今も残ることから、この地に国府が存在したことは確実とされている。古墳時代に有力豪族の能登臣(のとおみ)が勢力を築き、七尾湾という天然の良港を擁していたことが国府選定に有利に働いたとみられる。天平20年(748)、能登を旅した大伴家持は、七尾湾の情景を詠んで万葉集に遺した。七尾には、先人が紡いだ歴史と文化が今も息づいている。

お問い合わせ先 七尾市教育委員会スポーツ・文化課(0767-53-8437)

No.10 能登の禅の古刹と古道を歩く ～永光寺から總持寺へ～



構成文化財
・峨山道
・永光寺 (県指定史跡)

鎌倉時代に民衆救済の新仏教として生まれた禅の教えは、瑩山紹瑾(けいざんじょうきん)により能登の地に伝えられ、最初の道場として豊財院(ぶざいいん)、続いて永光寺(ようこうじ)、總持寺(そうじじ)を開山するに至った。瑩山の弟子、峨山韶碩(がさんじょうせき)が伝道のために歩んだ永光寺と總持寺を結ぶ山道は、やがて「峨山道(がさんどう)」と呼ばれるようになる。能登の「禅の古刹と古道」を訪ねれば、禅の文化を肌で感じることができる。

お問い合わせ先 輪島市教育委員会文化課(0768-22-7666)

No.11 能登の王墓 ～半島を舞台に躍動したノの王～



構成文化財
・能登上布 (県指定無形文化財)
・小田中親王塚古墳 (中能登町指定史跡)

日本海に大きく突き出す能登半島は、古来より多くの文化を受け入れてきた。ヤマト政権は前方後円墳に代表される王墓を各地に広め、権力誇示のためのモニュメントとなった。能登では、4世紀後半から水陸の要所に「能登の王墓」というにふさわしい規模の古墳が築かれてきた。「能登の王墓」は時代を経て、墳丘上に社が建ち、地域の人々が祈りを捧げる場所へと変容しながらも継承され、様々な文化や伝承を生み出し、今も引き継がれている。

お問い合わせ先 中能登町教育委員会(ふるさと創修館内)(0767-74-2735)

No.12 大聖寺十万石城下町～江戸時代の町絵図で歩ける町～



構成文化財
・実性院本堂・御霊屋 (市指定有形文化財)
・大聖寺城跡 (市指定史跡)

白山信仰の中心地のひとつであった「大聖寺」を名前の由来に持つ大聖寺は、戦国時代には大聖寺城が築かれ、江戸時代には大聖寺藩の城下町として、庭園や長流亭を備える藩邸を中心に、武家屋敷や町屋、寺院などが建ち並んでいた。現在も江戸時代の町割りやほぼ残っており、江戸時代の町絵図で町歩きを楽しむことができる。能楽等の芸能・嗜みなど大聖寺藩時代に生まれた伝統文化も息づいている。

お問い合わせ先 加賀市産業振興部文化振興課(0761-72-7888)

No.13 いにしへの記憶をたどる道 ～俱利伽羅峠～



構成文化財
・北国街道俱利伽羅峠道 (県指定史跡)
・俱利伽羅合戦図屏風 (町指定有形文化財)

俱利伽羅峠は、石川県と富山県の境(加賀と越中の境)に位置する。峠に至る道には急峻な所も多く難所とされてきた。旅人は「手向けの神(たむけのかみ)」に祈りを捧げ、頂上の泉などで疲れを癒しながらこの道を越えていった。また、峠は軍事的にも重要であったため、ここを舞台とした戦いが幾度となく繰り広げられており、城や陣跡が点在している。俱利伽羅峠を歩くことによって、いにしへの旅人と同じ目線でその歴史や、加越能の眺望を体感できる。

お問い合わせ先 津幡町教育委員会生涯教育課(076-288-2125)

No.14 能登の山岳信仰の霊場 ～石動山と山麓の歴史遺産～



構成文化財
・旧観坊 (県指定有形文化財)
・紙本著色石動山境内古絵図 (町指定有形文化財)

石川県と富山県の県境にそびえる石動山は、古より神々が御坐す山として多くの人々を惹きつけてきた。最盛期の中世には360余りの院坊に僧侶3千人が暮らしていたと伝えられる。戦国の動乱から再興し、能登の霊場として定着していった石動山は、明治の神仏分離令により仏教色は一掃されたが、堂塔伽藍(どうとうがらん)の痕跡は今なお残り、山麓の平野部では地域の人々によって石動山ゆかりの遺産が受け継がれている。

お問い合わせ先 中能登町教育委員会(ふるさと創修館内)(0767-74-2735)